P1-003

在籍保育所における親子療育教室の意義
—第4報—施設間連携と地域支援橋本 かほる¹、竹内 恵子²、津田 明美³¹ 京都先端科学大学健康医療学部、² 福井大学教育学部、³ 福井県こども療育センター

【はじめに】

福井市では、特別な配慮が必要な子どもへの支援を強化する柱の一つとして、公立保育園の研究指定園における親子療育教室（教室）の研究を2012年から継続し、今年度で10年目となる。さまざまな発達の子どもの保育や、保護者への支援など保育者の担う役割は大きく、保育の専門性だけでは対応が難しい現状にある。このような状況の中で、福井市は療育研究指定園を置き、親子療育教室、教室終了後に学校への移行支援を目的とするOB会、県内の施設を対象とした視察研修に取り組んできた。

【目的】

福井市公立保育園のうち療育研究指定園の10年間の取り組みについて、施設間連携と地域支援の視点から報告する。

【結果】

1. 県と市の連携

福井市は2009年度より県立専門療育機関に保育者を派遣し、2021年度までに6名が療育における保育の専門性について研修を終え、その成果を公立保育園で活かしている。県からは小児科医が教室の保護者学習会や視察研修のコーディネーターを担い、2016年度からは作業療法士の協力を得られるようになった。教室をきっかけとして在園中に専門機関を受診した子どもは、10年で42名、教室参加者の47.7%であった。

2. 療育研究指定園と関係施設との連携

教室では小児科医、言語聴覚士、作業療法士、栄養士、保健師等、専門職からの保護者にむけた学習会が年間10回程度開催されている。教室を終了したグループ（OB会）の学習会では、就学先の小学校校長および福井市学校教育課から就学に向けた説明の機会を得ている。さらに保小連絡会では、事例検討会を持ち、移行支援した子どもの就学後の課題について小学校からフィードバックを受けている。

3. 療育研究指定園2園間の連携

両園の間での職員移動、他園への職員異動により、福井市公立保育園全体が発達の気になる子どもへの支援について理解が得られるようになった。

【考察】

発達の気になる子どもが増えているなかで、保育園は保育の専門職として子どもの発達を支えながら日々の生活の中で、子どもや家族に必要な支援項目の優位性の変化にいち早く対応できる環境にある。保護者の療育に対する多様なニーズを最初に受けて理解し、必要とされる専門領域の職種につなぐ役割を担っている。

P1-004

保育者の支援が子どもの身体活動に及ぼす影響の検討

伊藤 優、須崎 康臣

島根大学

【目的】

近年、幼児の身体を動かすことへの不器用さや発達の遅れが多く指摘されている。幼児期は健康的な身体基礎を培う重要な時期であり、生涯にわたる健康維持のために運動習慣や身体活動の楽しさやそれらの必要性を学ぶ適時期でもある。そのため、この時期にこそ、幼児が主体的に身体活動を行う習慣や楽しさを感じられるような支援を行うことが重要となる。そこで本研究は、保育者の保育スタイル、園の保育観が幼児の身体活動に与える影響を明らかにすることを目的とする。

【方法】

2021年7月～9月に、幼稚園や子ども園9園の保育者と保護者を対象に質問紙調査を行い、有効対象者は保育者42名、保護者598名であった。質問紙調査の内容は、(1)保育者の保育スタイル、(2)保護者の支援意識、(3)園の保育観、(4)幼児の身体活動についてであった。幼稚園や子ども園での幼児の身体活動に関しては、クラス担任である調査協力者に幼児の身体活動について5件法で回答を求めた。本研究は、事前に島根大学の研究倫理審査委員会の承認を得た上で実施した。

【結果】

(1) 保育者の援助・賞賛スキル、非一貫性・子ども主導スキルが「園で子どもが体を思いっきり動かす」活動や「園で子どもがいろいろな運動遊びに進んで取り組む」活動を、保育者の援助・賞賛スキルが「園で子どもが友だちと一緒に遊ぶ」活動を促進させることが示唆された。一方、保育者の情報獲得・発信スキル、罰スキルは、子どもの身体活動を抑制する傾向がみられた。(2) 子どもの園での自由時間が2～3時間未満の園の子どもは、1～2時間未満の園の子どもより、身体活動評価点が高い傾向が示された。(3) 「園で子どもが体を思いっきり動かす」活動や「園で子どもがいろいろな運動遊びに進んで取り組む」活動において、自由遊び保育が「どちらかという也多い」園の子どもは、身体活動評価点が高い傾向がみられた。(4) 「園で子どもが友だちと一緒に遊ぶ」活動において、遊び時間での用具や場の用意などの環境構成が「少しできている」保育者クラスの子どもは、「どちらともいえない」保育者クラスの子どもより身体活動評価点が高い傾向が示唆された。

【考察】

保育者の支援の仕方、園での活動状況は、子どもが身体を思いっきり動かし、多様な運動遊びに取り組むなどの身体活動に影響があることが示唆された。